

株式会社 JALUX

2021 年 3 月期 決算説明会

2021 年 6 月 1 日



イベント概要

[企業名]	株式会社 JALUX
[企業 ID]	2729
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2021 年 3 月期 決算説明会
[決算期]	2020 年度 通期
[日程]	2021 年 6 月 1 日
[ページ数]	32
[時間]	11:00 – 11:23 (合計：23 分、登壇：23 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	1 名 代表取締役社長 篠原 昌司 (以下、篠原)

サポート

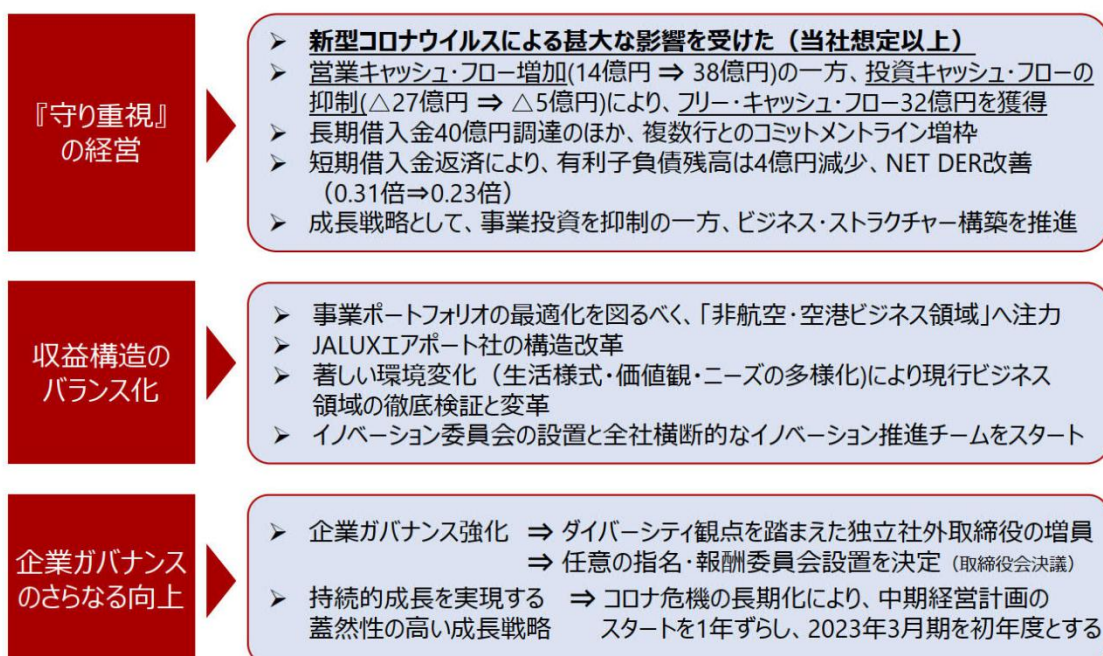
日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

篠原：JALUX 社長を務めます、篠原昌司です。よろしくお願いいたします。本日は緊急事態宣言の下、オンラインにて、まず 2020 年度の連結決算について、そして 2021 年度の業績見通しについてご説明します。

Financial Results for Year Ended March 31, 2021

1 2021年3月期 総括

【2021年3月期 基本方針に対する総括】



4 ページをご覧ください。

2020 年度の総括です。とにかく当社業績は、新型コロナ感染拡大による甚大な影響を受けた 1 年となりました。その影響は、当社の予想をはるかに超えるものでした。

2020 年度のスタートにあたり、コロナ影響を考えた上で、三つの基本方針を立てました。第 1 に、守り重視の経営。第 2 に、収益構造のバランス化。第 3 に、企業がバナンスのさらなる向上。以上、三つの取り組みを着実に進めました。

2 連結P/L (概要)

(単位：百万円)

連結P/L	2020年3月期	2021年3月期	前期差	前期比(%)
売上高	144,688	80,346	△64,341	55.5
売上総利益	25,840	12,518	△13,322	48.4
販売管理費	21,870	15,433	△6,436	70.6
営業利益/損失(△)	3,969	△2,915	△6,885	—
営業外損益	768	488	△279	63.6
経常利益/損失(△)	4,738	△2,426	△7,164	—
特別損益	△182	△1,184	△1,001	—
親会社株主に帰属する 当期純利益/損失(△)	3,081	△2,366	△5,447	—
売上総利益率(%)	17.9	15.6	△2.3	
経常利益率(%)	3.3	△3.0	△6.3	

① 売上高	80,346	… 前期比	△64,341	航空機エンジン部品販売(△17,675)、空港店舗(△15,959)、免税店舗の販売(△10,538)
② 販売管理費	15,433	… 前期比	△6,436	賃借料(△2,486)、人件費(△1,861)、販売手数料(△637)
③ 営業外損益	488	… 前期比	△279	助成金収入(956)、受取配当金(97)、持分法投資損失(△469)
④ 特別損益	△1,184	… 前期比	△1,001	空港店舗臨時休業による損失(△726)、航空機エンジン・空港店舗等固定資産減損(△325)



次に、連結 P/L です。

売上高 803 億円、前期から 643 億円のマイナス。営業利益、マイナス 29 億円、前期からマイナス 69 億円。経常利益、マイナス 24 億円、前期からマイナス 71 億円。純利益、マイナス 23 億円、前期からマイナス 54 億円。以上、厳しい結果となりました。

主たる原因は、航空機エンジン部品ビジネス、空港店舗事業、免税店舗事業における売上が大きく減少したことによるものです。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

3 連結業績 予想比

(単位：百万円)

連結業績 予想比	業績予想*	2021年3月期	差額	予想比(%)
売上高	85,000	80,346	△4,654	94.5%
営業利益/損失 (△)	△3,000	△2,915	85	
経常利益/損失 (△)	△2,500	△2,426	74	
親会社株主に帰属する 当期純利益/損失 (△)	△2,100	△2,366	△266	
親会社株主に帰属する 1株当たり当期純利益 [EPS] (円)	△166.09	△187.16	△21.07	

※業績予想数値は、2020年10月30日発表の『通期連結業績予想の修正に関するお知らせ』発表値

【ポストコロナを見据えた構造改革費用の計上】

- JALUX AMERICAS Inc.で保有する航空機部品の評価減(△477)
- JALUX SINGAPORE PTE. LTD.で保有する航空機エンジンの減損損失(△208)
- 空港店舗事業における固定資産減損損失(△32)



次に、昨年 10 月 30 日発表の業績予想との比較です。

純利益において、予想のマイナス 21 億円に対して、マイナス 23 億円となり下振れました。この原因は、まず第 4 四半期において 2 回目の緊急事態宣言が発出されたこと、そして、ポストコロナを見据えた構造改革費用を計上したことによるものです。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



4 販売管理費の内訳

(単位：百万円)

販売管理費内訳	2020年3月期	2021年3月期	前期差	前期比(%)
売上総利益	25,840	12,518	△13,322	48.4
人件費	7,951	6,090	△1,861	76.6
賃借料	4,538	2,051	△2,486	45.2
社外役務費	1,653	1,452	△201	87.8
減価償却費	662	555	△107	83.8
荷造運送費	1,749	1,456	△292	83.3
その他	5,315	3,827	△1,488	72.0
販売管理費合計	21,870	15,433	△6,436	70.6
営業損益	3,969	△2,915	△6,885	—

(※)空港店舗臨時休業による損失(人件費・賃借料・減価償却費) 726百万円は特別損失に計上

① 売上高減少に伴う販売管理費の減少	△3,332	… 歩合家賃(△2,346)、販売手数料(△637)、荷造運送費(△292)等
② コスト削減努力による販売管理費の減少	△2,274	… 人件費(△1,304)、社外役務費(△201)、旅費交通費(△287)等
③ (※)特別損失の振替による販売管理費の減少	△726	… 空港店舗臨時休業期間の人件費・賃借料・減価償却費(△726)



次に、販売管理費です。

あらゆるコスト削減に向けた努力の結果、合計 154 億円となりました。前期との比較では、64 億円の減少となりました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

5 連結B/S (概要)

(単位：百万円)

連結B/S	2020年3月期末	2021年3月期末	前期差	前期比(%)
流動資産	48,765	40,788	△7,977	83.6
現金及び預金	6,175	8,466	2,290	137.1
固定資産	12,079	11,487	△591	95.0
有形固定資産	5,266	4,472	△793	84.9
無形固定資産	673	593	△80	88.1
投資その他の資産	6,138	6,421	282	104.6
資産合計	60,844	52,276	△8,568	85.9
流動負債	31,704	23,159	△8,544	73.0
固定負債	1,093	4,431	3,337	405.3
純資産	28,046	24,685	△3,361	88.0
(内、当社株主帰属純資産)	(26,337)	(23,465)	(△2,872)	(89.0)
負債純資産合計	60,844	52,276	△8,568	85.9

① 総資産	52,276	...	前期比	△8,568	現預金増加(+2,290)、航空機エンジン部品等売上債権減少(△11,118)
② 負債	27,590	...	前期比	△5,207	長期借入金増加(+3,335)、CP増加(+998)、 航空機エンジン部品等仕入債務減少(△3,803)、短期借入金減少(△4,747)
③ 純資産	24,685	...	前期比	△3,361	親会社株主に帰属する当期純損失計上(△2,366)、配当金支払い(△632)、 非支配株主持分減少(△488)



-8-

Copyright © JALUX Inc. All Rights Reserved.

次に、連結 B/S です。

当社株主に帰属する純資産は 235 億円となり、前期から 29 億円減少しました。これは、2020 年度の純損失 23 億円と配当金支払 6 億円によるものです。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

6 財務状況

Financial Results for Year Ended March 31, 2021

(単位：百万円)

財務状況	2020年3月期末	2021年3月期末	前期差	前期比(%)
総資産	60,844	52,276	△8,568	85.9
自己資本 (※当社株主帰属純資産)	26,337	23,465	△2,872	89.0
自己資本比率(%)	43.3	44.9	1.6	
有利子負債残高	14,329	13,904	△425	97.0
NET DER(倍)	0.31	0.23	△0.08	

- ① 自己資本比率 44.9% … 総資産52,276(△8,568)、自己資本23,465(△2,872)の結果、自己資本比率が1.6%増加
 ② 有利子負債残高 13,904 … 長期借入金増加(+3,335)、CP増加(+998)の一方、短期借入金減少(△4,747)等の結果、前期比△425の減少
 ③ NET DER(倍) 0.23倍 … 有利子負債残高減少(△425)、現預金増加(+2,290)の結果、前期比△0.08ポイントの改善



-9-

Copyright © JALUX Inc. All Rights Reserved.

次に、財務状況です。

守り重視の経営を進めた結果、自己資本比率 44.9%、有利子負債残高 139 億円、NET DER 0.23 倍となり、財務の健全性は一定程度保たれたものと考えています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



7 連結キャッシュ・フロー（概要）

(単位：百万円)

連結キャッシュ・フロー	2020年3月期	2021年3月期	前期差
営業キャッシュ・フロー	+1,488	+3,825	2,337
投資キャッシュ・フロー	△2,744	△592	2,152
(フリーキャッシュ・フロー)	(△1,255)	(+3,233)	(4,489)
財務キャッシュ・フロー	+1,418	△917	△2,335

① 営業キャッシュ・フロー	+3,825	…	税金等調整前当期純損失計上(△3,611)、売上債権回収(+11,688)、仕入債務支払(△3,724)
② 投資キャッシュ・フロー	△592	…	固定資産取得による支出(△618)
(フリーキャッシュ・フロー)	(+3,233)	…	営業キャッシュ・フロー(+3,825)、投資キャッシュ・フロー(△592)の結果、フリーキャッシュ・フロー(+3,233)の獲得
③ 財務キャッシュ・フロー	△917	…	借入金純減額(△1,267)、CP発行(+998)、配当金支払い(△632)



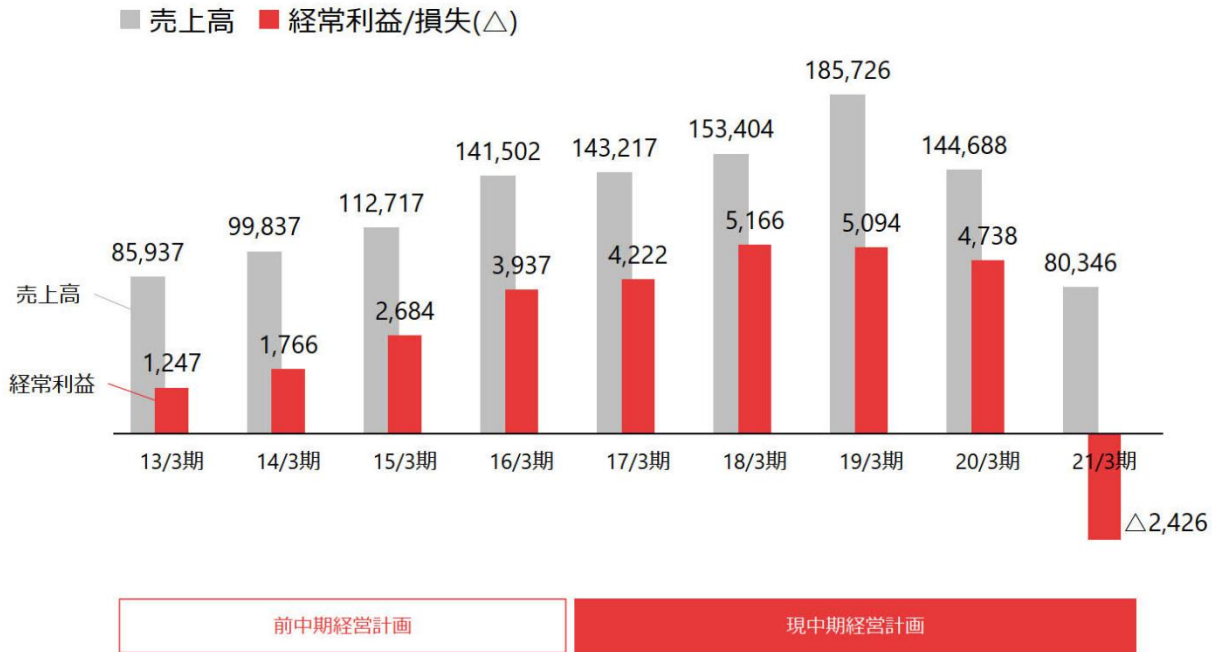
次に、連結キャッシュ・フローです。

営業キャッシュ・フロー、プラス 38 億円。投資キャッシュ・フロー、マイナス 6 億円。以上より、フリーキャッシュ・フローはプラス 32 億円。財務キャッシュ・フローは、借入金減少によりマイナス 9 億円。以上となりました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

(単位：百万円)

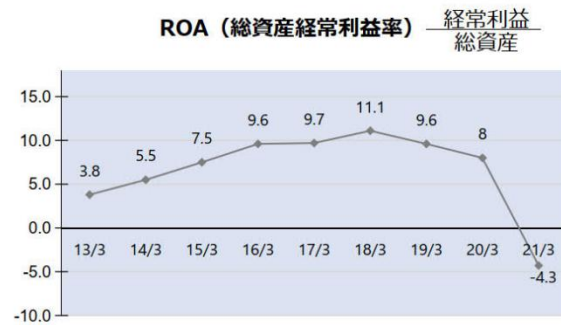
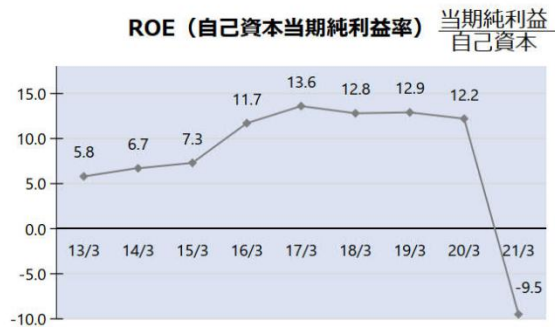


次に、2013年3月期から2020年度までの9期にわたる業績推移はご覧のとおりです。2020年度が、当社にとっていかに厳しいものであったかを物語っております。

サポート

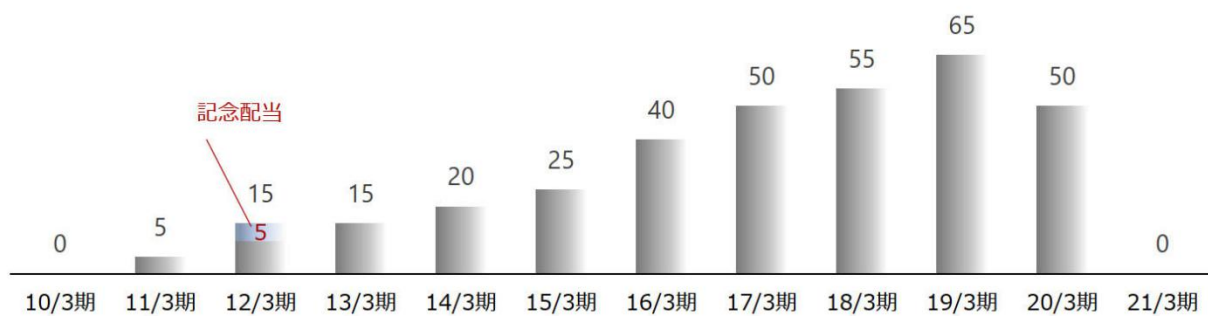
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

9 ROE・ROA・配当の推移



1株当たり配当の推移 (2010年3月期～2021年3月期)

(単位：円/1株当たり)



次に、ROE・ROA・配当の推移についてはご覧のとおりです。

なお、今期の配当ですが、2020年度の純損失が23億円になったことにより、誠に申しわけありませんが無配といたしました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

10 セグメント売上高

(単位：百万円)

セグメント売上高	2020年3月期	2021年3月期	前期差	前期比(%)
航空・空港	48,819	28,640	△ 20,179	58.7
ライフサービス	13,095	13,979	884	106.8
リテール	57,625	20,296	△ 37,328	35.2
フーズ・ビバレッジ	26,574	17,857	△ 8,716	67.2
全社及び消去	△1,426	△ 427	999	-
合計（連結）	144,688	80,346	△ 64,341	55.5

※各セグメントごとの内訳は内部取引消去前金額



次に、各セグメントについて説明します。

各セグメント売上高はご覧のとおりです。

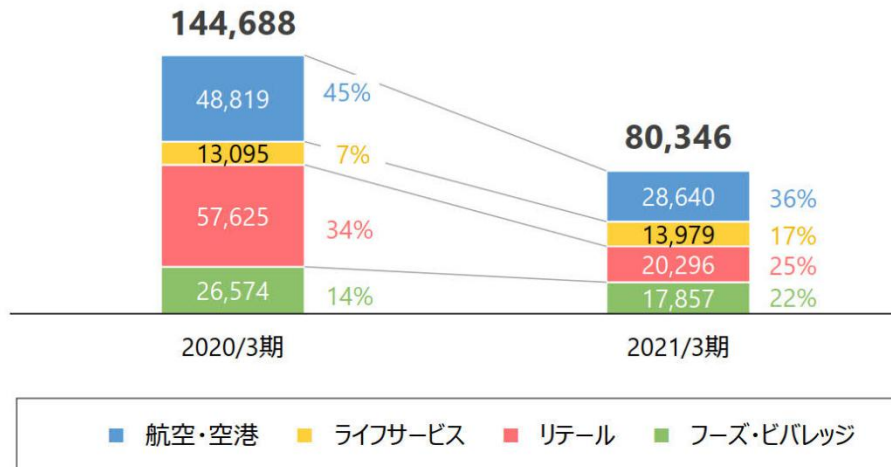
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



11 セグメント売上高構成比

(単位：百万円)



※各セグメントごとの内訳は内部取引消去前金額

- 航空・空港 : 整備分野は一部落ち込み下げ止まり回復の兆し、製造分野は減産計画により大幅減少
- ライフサービス : 不動産・保険事業 概ね堅調、感染症対策の衛生用品の需要増
- リテール : 国内線回復傾向も感染再拡大により鈍化、国際線大幅減便が免税事業に影響
- フーズ・ビバレッジ : 外食需要減少・トラベル需要減少が水産物・ワイン・土産菓子・弁当等に影響

-15-

Copyright © JALUX Inc. All Rights Reserved.

セグメント売上高構成比もご覧のとおりです。

サポート

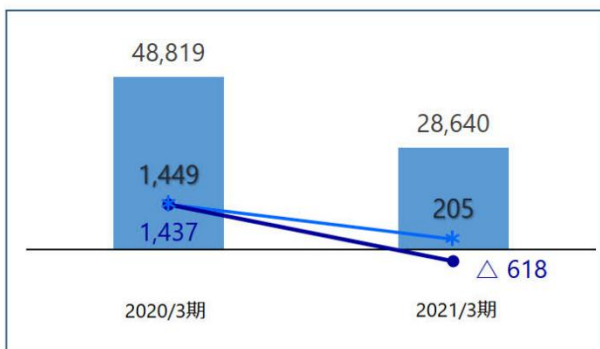
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

Asia's Meetings, Globally

(単位：百万円)

航空・空港	2020年3月期	2021年3月期	前期差	前期比(%)
売上高 ※1	48,819	28,640	△20,179	58.7
営業利益/損失(△)※2	1,449	205	△1,244	14.2
経常利益/損失(△)	1,437	△618	△2,055	-

※1 内部取引消去前金額
 ※2 共通経費配賦前営業損益



定性要因
【売上高減少要因】
<ul style="list-style-type: none"> 航空機エンジン部品販売...低調推移 ✓ 整備分野は一部で需要落ち込み下げ止まり回復の兆し ✓ 製造分野は減産計画により大幅に販売減少
【営業利益減少要因】
<ul style="list-style-type: none"> 航空機部品需要低迷により海外子会社保有部品 評価減
【経常利益減少要因】
<ul style="list-style-type: none"> 海外空港運営事業...大幅減便により持分法投資損失計上 ✓ ラオス・ビエンチャン・ワットアイ国際空港、ミャンマー・マンダレー国際空港



次に、各セグメントの業績を説明します。

まず、航空・空港セグメントですが、経常利益はマイナス6億円となりました。前期との比較では、20億円の減少となりました。これはまず、航空機エンジン部品ビジネスが低調であったこと、そして航空機部品在庫の評価減を行ったこと、さらに海外での空港運営事業がスローダウンしたことによるものです。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



13 ライフサービス

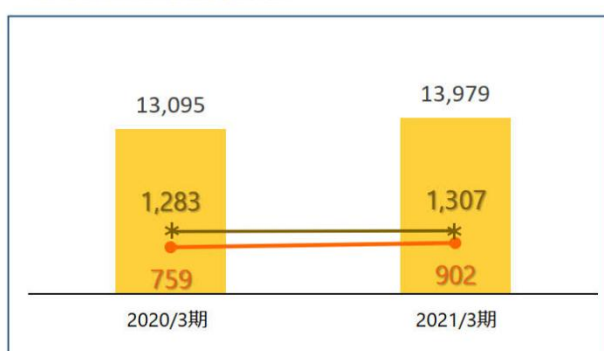
Financial Results for Year Ended March 31, 2021

(単位：百万円)

ライフサービス	2020年3月期	2021年3月期	前期差	前期比(%)
売上高 ※1	13,095	13,979	884	106.8
営業利益/損失(△)※2	1,283	1,307	24	101.9
経常利益/損失(△)	759	902	143	118.9

※1 内部取引消去前金額

※2 共通経費配賦前営業損益



定性要因

【売上高/営業利益増加要因】

- 機械・資材 : コロナ感染症対策の衛生用品輸入調達・販売
- 保険 : 海外旅行保険減少も団体保険増加により堅調推移
航空旅客需要減による空港施設管理業務減少及び
- 不動産 : サブリースの一部解約も開発コンサルタント・賃貸仲介により概ね堅調

【経常利益増加要因】

- 一過性の受取配当金増加



-17-

Copyright © JALUX Inc. All Rights Reserved.

次に、ライフサービスセグメントです。

経常利益 9 億円と、前期から増加しました。これは、不動産事業と保険サービス事業が堅調であったこと、そして一過性の受取配当金とコロナ対策用の衛生用品販売によるものです。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



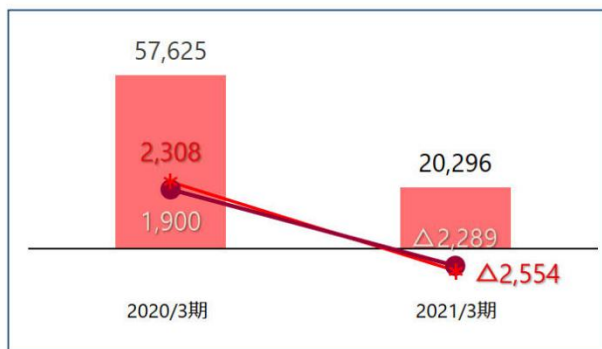
14 リテール

(単位：百万円)

リテール	2020年3月期	2021年3月期	前期差	前期比(%)
売上高 ※1	57,625	20,296	△37,328	35.2
営業利益/損失(△)※2	2,308	△2,554	△4,862	-
経常利益/損失(△)	1,900	△2,289	△4,190	-

※1 内部取引消去前金額

※2 共通経費配賦前営業損益



定性要因

【売上高/営業利益減少要因】

- ▶ 空港店舗 : 国内線旅客需要 回復傾向も感染再拡大で鈍化
『BLUE SKY』 : 成田空港全10店舗は臨時休業継続
- ▶ 免税店舗 : 上期 概ね全店舗休業 (羽田3店舗/成田3店舗)
『JAL DUTYFREE』 : 下期 成田空港 一部店舗 時短営業再開
- ▶ 免税卸販売 : 取引先免税店舗 大多数で臨時休業継続
- ▶ 通信販売 : 在宅での購買意欲高まり=グルメ・美容健康商品
- ▶ 贈答用食品 : お中元・お歳暮・おせちなどのギフト、在宅需要増加

【経常利益減少要因】

- ▶ 営業外収益 : 空港店舗臨時休業期間に対する助成金計上
- ▶ 特別損失 : 空港店舗臨時休業期間の固定費計上

-18-

Copyright © JALUX Inc. All Rights Reserved.

そして、リテールセグメントですが、経常利益はマイナス 23 億円となりました。前期との比較では 42 億円の大幅減少となりました。コロナ感染拡大によって、人の移動と接触が大きく制限される中、空港店舗事業の「BLUE SKY」、免税店舗事業の「JAL DUTYFREE」、免税卸販売が大きく苦戦したことによるものです。

一方、在宅での購買意欲の高まりから、通信販売の「JAL ショッピング」、そして百貨店でのギフト食品などが順調に推移しました。

サポート

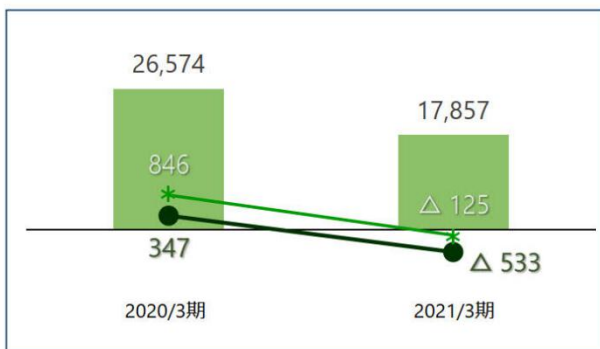
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

Asia's Meetings, Globally

(単位：百万円)

フーズ・ビバレッジ	2020年3月期	2021年3月期	前期差	前期比(%)
売上高 ※1	26,574	17,857	△8,716	67.2
営業利益/損失(△)※2	846	△125	△971	-
経常利益/損失(△)	347	△533	△881	-

※1 内部取引消去前金額
 ※2 共通経費配賦前営業損益



定性要因	
【売上高/営業利益減少要因】	
▶ 水産	: 外食需要減退 飲食店向け水産加工品卸 減少 タイ「トンロー-日本市場」同国非常事態宣言継続
▶ 農産	: パナカ 小売店向け卸販売順調 オクラ・トマト 航空輸送費高騰により輸入減少
▶ ワイン	: 外食需要減退 国内卸販売低調 EC販売・小売店向けなど新たな顧客創出
▶ 加工食品/食品製造	: 交通系リテール向け土産菓子・弁当卸販売減少 小売店向けなど新たな顧客創出 (JALUXフェア開催)



最後に、フーズ・ビバレッジセグメントです。

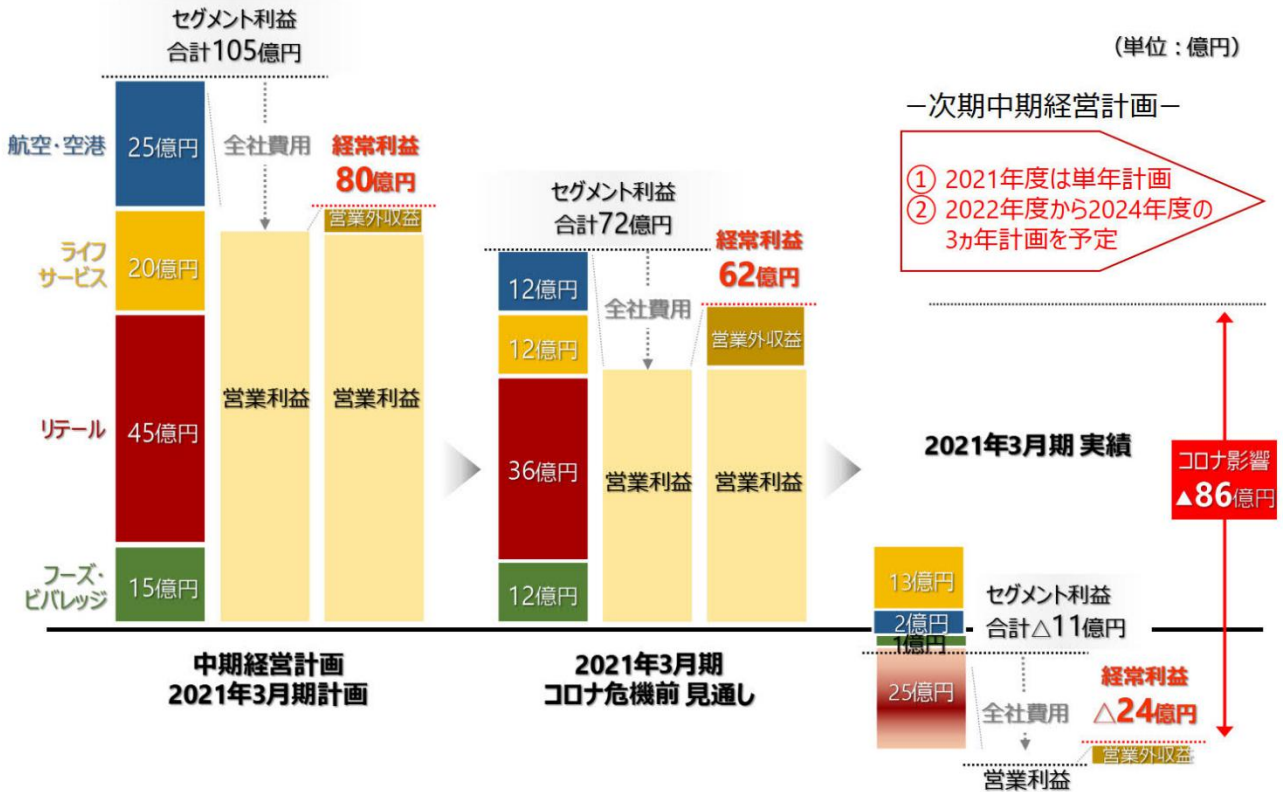
経常利益はマイナス 5 億円となりました。前期との比較では 9 億円減少しました。これは、コロナ感染拡大が飲食店・レストラン・ホテルなど、人の移動と接触が大きい分野に影響を及ぼし、その結果、水産・農産・ワイン・加工食品/食品製造、当社のこれら事業領域にも大きな影響を与えたことによるものです。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



16 2021年3月期決算に対する影響分析



Jalux

-20-

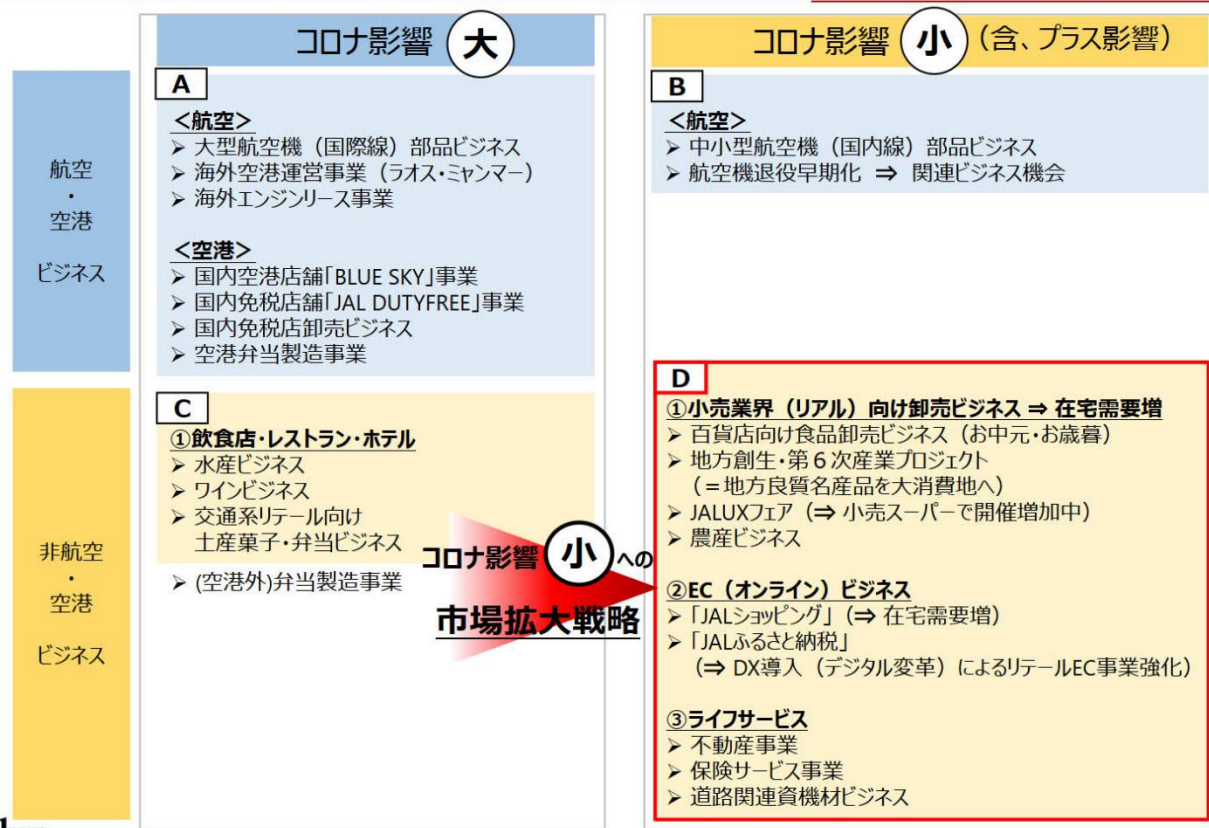
Copyright © JALUX Inc. All Rights Reserved.

次に、2020年度を最終年度とする中期経営計画のターゲットは、経常利益80億円でした。しかしながら、インバウンド需要のピークアウトや事業投資が計画通り進まなかったため、仮にコロナ影響なしベースでも2020年度の経常利益見込は62億円にとどまりました。そして、コロナ影響はマイナス86億円におよび、2020年度の経常利益はマイナス24億円という結果になりました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally



次に、2021年度の連結業績見通しを説明します。

JALUXグループのコロナ影響を分析し、整理したマトリックスをご覧ください。

コロナ感染拡大は、人の移動と接触を大いに制限するものであることから、やはり航空・空港ビジネスにおいて大きな影響を与えました。さらに、航空・空港に関係しない、いわゆる非航空・空港ビジネスにおいても、飲食店やレストランやホテルとの大きなビジネスを行っている水産・ワイン、そして交通系リテール向けのお菓子およびお弁当などの事業にも大きな影響を与えました。

一方、コロナ影響が小さかった、あるいは逆にプラスの影響を受けたビジネス領域は、赤色で囲ったDの部分です。まず、小売業界向けの卸売ビジネスです。そして、EC(オンライン)ビジネスです。これらはいずれも在宅需要の増加によるものです。当社としては、当社の持続的な成長および企業価値向上のポテンシャルはこのビジネス領域にあると考え、2020年度においてこの分野におけるさまざまな戦略を実行に移し、また先ほど申し上げた飲食店・レストラン・ホテル向けビジネス、これら全てを小売市場およびEC(オンライン)市場という新たな市場への進出を狙って、いわゆる市場拡大戦略を推進しています。

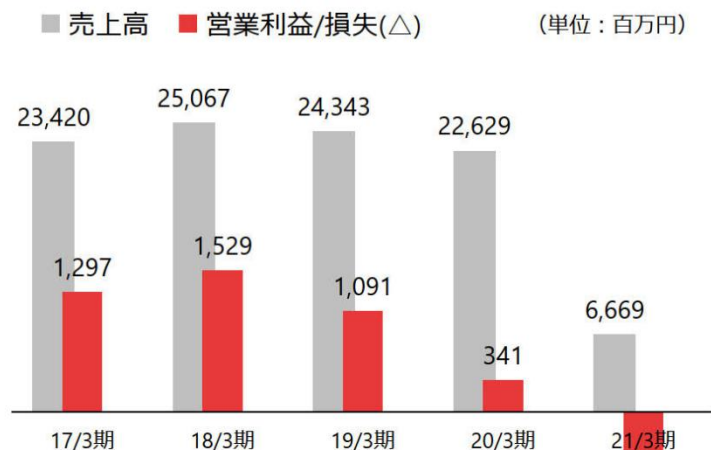
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

そして、ポストコロナを見据えて EC（オンライン）ビジネスにおいては、デジタル変革による事業スケールの拡大に取り組んでいます。

18 空港店舗『BLUE SKY』5カ年推移

Financial Results for Year Ended March 31, 2021



【羽田・成田空港利用客数推移（単位：千人）】

	17/3期	18/3期	19/3期	20/3期	21/3期
羽田空港	81,735	88,532	85,487	81,707	19,713
成田空港	37,249	38,962	41,238	39,541	3,050

出所：国土交通省 空港管理状況

【ポストコロナ戦略】

- ① 抜本的事業構造改革
- ② 競争優位性の獲得

- 組織フラット化による仕入・販売・商品構成など重要データ共有
- タイムリー・スピーディーなPDCA回転による業績向上

(1) 店舗販売データの活用徹底

- 商品最適化 ⇒ 顧客満足度向上
- 仕入最適化 ⇒ ロス削減
- 人の最適化 ⇒ 生産性向上（配置・シフト）

(2) 合理化努力 ⇒ 一部店舗削減（27空港に78店舗運営中）

Jalux

-23-

Copyright © JALUX Inc. All Rights Reserved.

次に、コロナ影響を大きく受けて苦戦を余儀なくされていますが、これまで当社グループの収益に大きく貢献してきた二つの事業について、当社がどのように考えているのか次のページから説明します。

まず、空港店舗、「BLUE SKY」です。

大きな収益を実現してきた事業ですが、他社との競争は激しくなっています。そこで、当社はポストコロナに向けた戦略として、第1に抜本的事業構造改革、第2に競争優位性の獲得に取り組んでいます。具体的には、組織のフラット化による、仕入・販売・商品構成など重要データを共有し、タイムリー・スピーディーにPDCAサイクルを回転させることで業績向上を図ります。

重要データの活用によって、三つの最適化を図ります。まず、商品の最適化により、顧客満足度を高めます。次に、仕入の最適化により、食品ロスを削減します。さらに、人の配置とシフトの最適化により、生産性を高めます。

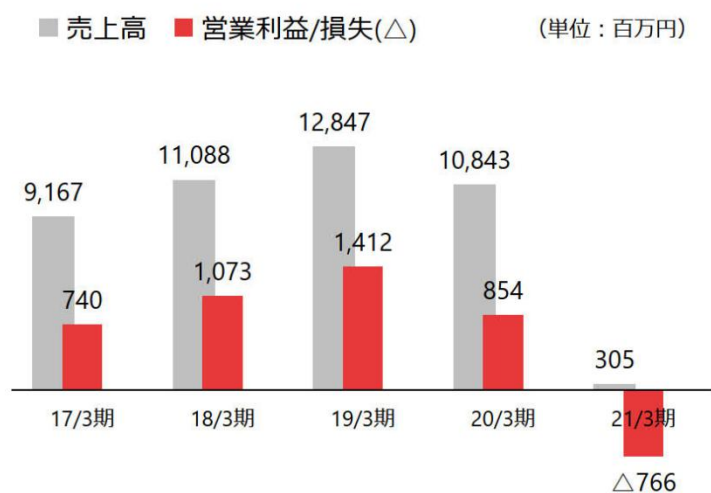
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
 Asia's Meetings, Globally

そして、合理化の一環として、一部店舗削減を行います。

19 免税店舗『JAL DUTYFREE』事業 5カ年推移



【インバウンド数推移 (単位：千人)】

	17/3期	18/3期	19/3期	20/3期	21/3期
インバウンド	24,823	29,772	31,626	27,768	242

出所：日本政府観光局 (JNTO) 訪日外客統計

世界全体の航空旅客需要の回復には相当の時間を要する

2020年7月、国際航空運送協会(IATA)発表によれば、「世界の航空旅客需要が2019年レベルに回復するのは2024年の見込み」

(1) コスト削減努力の継続

- ① 在籍出向
- ② ポストコロナにおいて「BLUE SKY」への人員シフト

- #### (2) 主要顧客層である東アジアからのインバウンド回復は、全世界インバウンド回復より早いタイミングとなる見込み

次に、免税店舗、「JAL DUTYFREE」事業についてです。

この事業も、インバウンド増加に伴って大きな収益を実現してきました。ただ、この事業に関しては、一言で言えば今は我慢のときであると考えています。それは、世界全体の航空における旅客需要が回復するには相当の時間を要すると言われているからです。2020年7月、IATAは、コロナ前の水準に回復するのは2024年の見込みであると発表しています。したがって、当社としてはコスト削減努力を継続します。

ただ一方で、当社の主要顧客層が東アジアであり、東アジアからのインバウンドの回復は、世界全体のインバウンド回復よりも早いタイミングになるであろうと考えており、それに向けた準備を着実に進めてまいります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

20 非航空・空港ビジネス領域

《集中リスクの低減と成長戦略に向けた「非航空・空港ビジネス領域」の取組にドライブ》

地方創生・第6次産業プロジェクト

- 当社グループが長年に渡り築き上げてきた経営資源が豊富に存在する**食品事業に注力**する方針を決定
- 「食」を通じた持続的な地域経済の発展とサステナビリティに直結するビジネスを地方自治体や有力小売事業者とのパートナー戦略により多角的に取り組んでいる
- **成長戦略 = (商品ラインナップ) × (小売店ラインナップ)**

①商品ラインナップの拡充 ⇒ 地方自治体とのパートナー戦略
(例：北海道・帯広市「フードバレーとかち」との包括連携協定)

②小売店ラインナップの拡充 ⇒ 小売事業者とのパートナー戦略
(例：全国スーパーマーケット協会との連携・協力)

DX導入（デジタル変革）によるリテールEC事業強化

- 通販事業「JALショッピング」、ふるさと納税サービス「JALふるさと納税」などのECサイトにおいて、積極的にデジタルテクノロジーを導入し、消費動向の把握と分析の高度化により、当社顧客に提供する付加価値を高め、事業スケールの早期拡大を目指す



非航空・空港ビジネス領域についての取り組みについて、もう少し説明を加えます。

この取り組みの狙いは、集中リスクの低減および当社成長戦略に向けた取り組みということです。まず、地方創生・第6次産業プロジェクトです。当社グループが長年にわたり築き上げてきた経営資源が豊富に存在する食品事業に注力する方針を決定しました。食を通じた持続的な地域経済の発展と、サステナビリティに直結するビジネスを、地方自治体や小売事業者とのパートナー戦略によって、多角的に取り組んでいます。

このプロジェクトの成長戦略は、商品ラインナップと小売店ラインナップ、これらの掛け算です。まず、商品ラインナップの拡充については、地方自治体とのパートナー戦略を進めています。次に、小売店ラインナップの拡充については、小売事業者とのパートナー戦略を進めています。

次に、DX導入（デジタル変革）によるリテールEC事業の強化です。通販事業の「JALショッピング」、ふるさと納税サービスである、「JALふるさと納税」などのECサイトに積極的にデジタルテクノロジーを導入し、消費動向の把握と分析の高度化によって、当社顧客に提供する付加価値を高め、事業スケールの早期拡大を目指すものです。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

21 2022年3月期の業績見通し

業績見通しの前提条件

- 新型コロナウイルス感染拡大が続く中、厳しい事業環境は継続する
- コロナ終息への鍵を握るワクチン接種については、(1)ワクチンの量的確保は進捗している、(2)ワクチン接種の進捗は混乱から迅速化へ向かい、年度末に向けての回復基調を想定する
- 国内線旅客数は第2四半期以降、回復に向かうが、一方、国際線旅客数の動向は不透明感高い

(公表数値)

(単位：百万円)

連結業績予想	2021年3月期	2022年3月期予想	前期差	前期比(%)
売上高	80,346	110,000 (参考)	+29,654	136.9%
営業利益/損失(△)	△2,915	300 (参考)	+3,215	-
経常利益/損失(△)	△2,426	200	2,626	-
親会社株主に帰属する 当期純損益	△2,366	100	2,466	-
親会社株主に帰属する 1株当たり当期純利益 [EPS] (円)	△187.16	7.91	195.07	-

2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、当該基準に基づいた経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益、1株当たり当期純利益の予想値を記載しています。売上高、営業利益は旧会計基準による参考値です。



2021 年度の業績見通しについて説明します。

まず、業績見通しの前提条件として、新型コロナウイルス感染拡大が続く中、厳しい事業環境は継続する。次に、コロナ終息への鍵を握るワクチン接種について、まず一つ、ワクチンの量的確保は進捗している。二つ、ワクチン接種の進捗は混乱から迅速化へ向かい、年度末に向けての回復基調を想定する。さらに、国内線の旅客は、第2四半期以降、回復に向かうが、一方で国際線の旅客の動向は不透明感が高い、というものです。

見通しですが、売上高 1,100 億円、営業利益 3 億円、経常利益 2 億円、純利益 1 億円。以上、黒字化の見通しとしております。今後、ワクチン接種がいかに早く進むかによりますが、当社としてはさらなる高みを目指してまいります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



22 セグメント売上高

(単位：百万円)

セグメント別売上高	2021年3月期	2022年3月期予想	前期差	前期比(%)
航空・空港	28,640	43,000	+14,360	150.1%
ライフサービス	13,979	14,000	+21	100.2%
リテール	20,296	33,000	+12,704	162.6%
フーズ・ビバレッジ	17,857	21,000	+3,143	117.6%
全社及び消去	△427	△1,000	△573	
合計（連結）	80,346	110,000	+29,654	136.9%

※各セグメントごとの内訳は内部取引消去前金額

2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、当該基準に基づいた経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益、1株当たり当期純利益の予想値を記載しています。売上高、営業利益は旧会計基準による参考値です。

- ▶ 航空・空港 : 航空機エンジン整備分野の回復を想定
- ▶ ライフサービス : 2021年3月期並みの推移を想定
- ▶ リテール : 国内線旅客回復による国内空港店舗事業の回復を想定
- ▶ フーズ・ビバレッジ : 人の移動や接触の制限緩和による回復を想定、非航空・空港ビジネス領域への取組加速



セグメント売上高はご覧のとおりであり、各セグメントの詳細はこの後ご説明します。

サポート

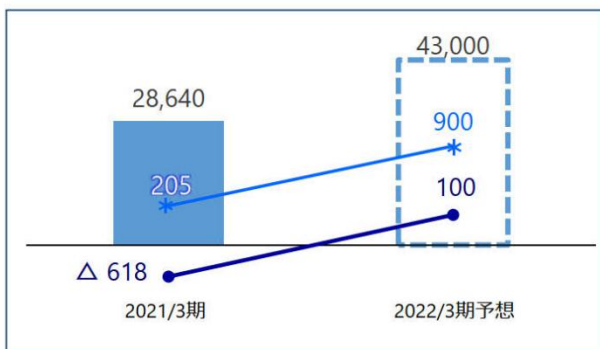
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



(単位：百万円)

航空・空港	2021年3月期	2022年3月期予想	前期差	前期比(%)
売上高 ※1	28,640	43,000	+14,360	150.1%
営業利益/損失(△)※2	205	900	+695	439.0%
経常利益/損失(△)	△618	100	+718	—

※1 内部取引消去前金額
 ※2 共通経費配賦前営業損益



定性要因

- 航空機エンジン部品販売事業において整備分野の回復を見込む
- 前期の中古航空機部品の評価減による一過性損失の反動増益
- 海外空港運営事業による持分法損益は大きな回復を見込まない



まず、航空・空港セグメントです。

経常利益 1 億円を見込みます。これは、航空機エンジン部品販売事業の回復、そして、前期の航空機部品の評価減による一過性損失の反動による増益、一方で、海外での空港運営事業による持分法損益は大きな回復を見込まないとの見通しによるものです。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



(単位：百万円)

ライフサービス	2021年3月期	2022年3月期予想	前期差	前期比(%)
売上高 ※1	13,979	14,000	+21	100.2%
営業利益/損失(△)※2	1,307	1,100	△207	84.2%
経常利益/損失(△)	902	600	△302	66.5%

※1 内部取引消去前金額
 ※2 共通経費配賦前営業損益



定性要因

- 不動産事業は2021年3月期並みの推移を想定
- 保険サービス事業は2021年3月期並みの推移を想定
- 道路関連資機材ビジネスの販売拡大と合理化効果を見込む
- 一過性の受取配当金やビジネスの反動減益



次に、ライフサービスセグメントです。

経常利益 6 億円を見込みます。これは、不動産事業が前期並み、保険サービス事業も前期並み、道路関連資機材ビジネスの販売拡大および合理化効果、一方で、前期に発生した一過性の受取配当金やビジネスの反動による減益、以上の見通しによるものです。

サポート

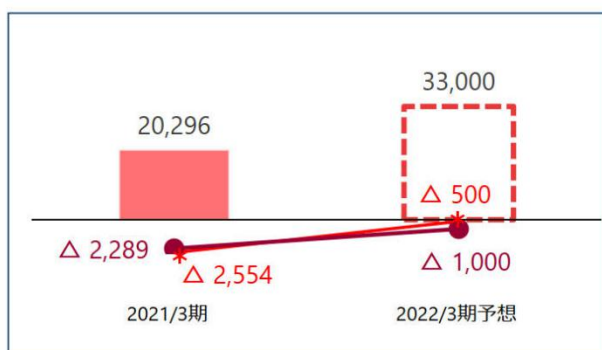
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



(単位：百万円)

リテール	2021年3月期	2022年3月期予想	前期差	前期比(%)
売上高 ※1	20,296	33,000	+12,04	162.6%
営業利益/損失(△)※2	△2,554	△500	+2,054	-
経常利益/損失(△)	△2,289	△1,000	+1,289	-

※1 内部取引消去前金額
 ※2 共通経費配賦前営業損益



定性要因

- ▶ 国際線旅客回復には時間を要するので、国内免税店舗事業「JAL DUTYFREE」の事業環境は引き続き厳しい
- ▶ 国内線旅客回復による国内空港店舗事業「BLUE SKY」の赤字脱却ベクトルを想定
- ▶ 「JALショッピング」において在宅需要増に応える商品拡大(JALラウンジカレーなど)による増収を見込む
- ▶ 「JALふるさと納税」の事業拡大・成長による増収を見込む



次に、リテールセグメントです。

経常利益、マイナス10億円を見込みます。これはまず、国際線の旅客回復には時間を要するので、免税店舗である「JAL DUTYFREE」の事業環境は引き続き厳しい。一方、国内線の旅客の回復により、国内空港店舗である「BLUE SKY」は赤字脱却へのベクトルを想定する。「JAL ショッピング」において、在宅需要増加に応える商品を拡大し、増益を見込む。「JAL ふるさと納税」の事業拡大・成長による増益を見込む。以上の見通しによるものです。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

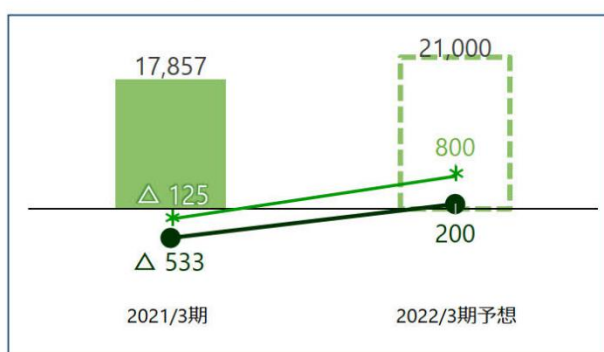


26 フーズ・ビバレッジ

(単位：百万円)

フーズ・ビバレッジ	2021年3月期	2022年3月期予想	前期差	前期比(%)
売上高 ※1	17,857	21,000	+3,143	117.6%
営業利益/損失(△)※2	△125	800	+925	-
経常利益/損失(△)	△533	200	+733	-

※1 内部取引消去前金額
 ※2 共通経費配賦前営業損益



定性要因

- 飲食店・レストラン・ホテル向け需要は第2四半期以降、徐々に回復を見込む
- 「非航空・空港ビジネス領域」である小売スーパー向けの卸販売を強化する（JALUXフェアなど）
- 「地方創生・第6次産業プロジェクト」の推進により地方良品発掘・開発と販売拡大を見込む



最後に、フーズ・ビバレッジセグメントです。

経常利益 2 億円を見込みます。これは、飲食店・レストラン・ホテル向け需要が第 2 四半期以降、徐々に回復するであろうことを見込みます。非航空・空港ビジネス領域である小売スーパー向けの卸販売を強化します。地方創生・第 6 次産業プロジェクトの推進により、地方の良品発掘および開発、そして販売拡大を見込みます。以上の見通しによるものです。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



27 基本戦略と持続的成長

《「イノベーション推進」と「サステナビリティ推進」を経営戦略の両輪と位置付け、短期的な業績回復と中長期的な持続的成長を目指す》

イノベーション推進

- 既存ビジネスの派生・融合領域への取り組みを加速
- デジタル技術の積極導入・活用 ⇒ 「JALショッピング」や「JALふるさと納税」など
- オープンイノベーションへの挑戦（フード関連のベンチャー投資ファンドに出資済）

＜イノベーション体制の構築＞

- ① 経営の意思を反映させるイノベーション推進委員会を設置
- ② 全社横断的な若手中心のイノベーション推進チームを組成し、様々なイノベーションアイデアを創出 ⇒ 新規事業投資機会の追求

サステナビリティ推進

- 環境・社会課題解決に取り組み、当社グループの持続的成長を目指し、豊かな未来の実現に向けた「サステナビリティ経営」を推進する

＜5つのマテリアリティ(重要課題)を特定＞

ステークホルダーの期待・要請、および、当社グループへのインパクトの観点から、社内外多数のヒアリング実行、分析、協議、決議を行った



最後に、持続的成長に向けての当社の考え方を説明します。

基本方針は、イノベーション推進とサステナビリティ推進を経営戦略の両輪と位置付け、短期的な業績回復、そして中長期的な持続的成長を目指すということです。

まず、イノベーション推進については、既存ビジネスの派生・融合領域への取り組みを加速します。デジタル技術の積極導入や活用を進め、「JAL ショッピング」や「JAL ふるさと納税」などの事業を成長させます。また、オープンイノベーションへの挑戦も進めます。

次に、サステナビリティ推進については、環境・社会課題解決に取り組み、当社グループの持続的成長を目指し、豊かな未来の実現に向けたサステナビリティ経営を推進します。

今般、五つのマテリアリティ（重要課題）を特定しました。マテリアリティ特定のプロセスとして、ステークホルダーの期待および要請、そして当社グループへのインパクトの観点から、社内外多数のヒアリングを実行、分析、協議、決議を行いました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

JALUXグループは、企業活動を通じて、さまざまな環境・社会課題解決に取り組み、持続可能な社会を実現すると同時に、持続的な企業価値向上を目指し、サステナビリティの視点を経営戦略や事業戦略に組み込むことで、豊かな未来の実現に向けた「サステナビリティ経営」を推進します。





























次の 2 ページは、5 月 25 日、当社ホームページに掲載いたしました、皆様への詳しい説明です。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



29 JALUXグループの5つのマテリアリティ

気候変動への対応と循環型社会の実現	関連するSDGs
地球規模の共通課題に対応し、航空・空港をはじめJALUXグループが携わるすべての事業領域において、ステークホルダーと協力しながら、サプライチェーン全体を通じた2050年カーボンニュートラル・脱炭素社会と循環型社会の実現を目指していきます。	    
地域社会に貢献し、豊かな未来を実現	
JALUXグループが長年培ってきた全国ネットワークを活かし、各地の産品をより多くの消費者に届けることや、国内のさまざまな地域において持続可能な生産体制づくりの支援などを行うことで、地域社会と共に成長していきます。	     
「食」を通じた社会課題の解決	
原料調達から製造・流通・販売というサプライチェーン全体で事業を展開するJALUXグループの強みを活かし、各工程において、食の安全、フードロス、エシカル消費、持続可能な食料供給など、食に関わる社会課題の解決に取り組んでいきます。	      
人権の尊重、人材育成とダイバーシティ&インクルージョンの推進	
すべての企業活動において人権を尊重します。また、多様な人材が個々の能力を最大限に発揮して新たな価値を生み出せるように、人材の育成に取り組んでいきます。	     
すべてのステークホルダーの信頼に応える基盤の構築	
経営の透明性を追求し、コンプライアンスの徹底に基づく誠実な姿勢で、安全かつ高品質な商品・サービスの提供に最善を尽くしていきます。	 

Jalux

-35-

Copyright © JALUX Inc. All Rights Reserved.

私からの皆様への説明は以上です。ご清聴、誠にありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所については[音声不明瞭]と記載

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

SCRIPTS
 Asia's Meetings, Globally

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用をしてはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com